

第二次審査（論文公開審査）結果の要旨

Factors influencing the mental health of international students, as observed in a longitudinal study on former Japanese government scholarship students

元日本国費留学生の縦断的調査から示唆される、
留学生のメンタルヘルスを左右する要因

日本医科大学大学院医学研究科 精神・行動医学分野
研究生 南 砂

Journal of Nippon Medical School 第88巻第5号（2021年10月号）掲載予定

日本政府が外国人留学生 10 万人受け入れ計画を打ち出した 1983 年以降、日本で学ぶ留学生は増え続け、現在、その数は 30 万人を超えつつある。申請者は、1980 年代から都内の留学生会館で留学生カウンセリングを続ける中で、留学生のメンタルヘルスを左右する要因が、各人の性格傾向や、体験する困難のみならず、困難をどう受け止め、対処するかにかかっているという考えを深めた。本研究では、1980 年代に日本で学んだ国費留学生を縦断的に追跡し、留学の満足度、現在の主観的幸福度などを調査して留学生のメンタルヘルスに影響する要因を探り、今後の留学生支援の在り方に資することを目的とした。

1980 年～91 年に東京外国語大学附属日本語学校において大学入学前の予備教育を受けた元国費留学生に、調査の意義と目的を説明し、同意を得た上で質問紙によるウェブ調査を実施、回答が得られた 82 名を対象とした。調査では、年齢、国籍などの基本属性、日本語能力などの情報、留学当時の学生生活、日本留学の満足度、現在の自身の幸福度などを質問した。

「留学時の学生生活」と「留学に対する満足度」の関連を検討したところ、異文化摩擦や困難に直面しても、それらを肯定的に受け止め柔軟に対応しようとした学生は、困難を克服し前進できたことが明らかになり、各人の持つ「異文化対応力」の重要性が示された。また、日本人の友人との密な交流を持った学生ほど留学の満足度が高いという結果から、日本人学生との交流の難しさと満足度は表裏一体で、以前から指摘されている深刻な留学生問題と思われた。その他、日本への期待と学びに寄せる意欲の高さが留学生のメンタルヘルスに影響し、留学の満足にもつながること、さらには、学生生活に関する回答と現在の主観的幸福度の間にも同様の関連が確かめられた。

以上、留学中、文化の違いや直面する困難を肯定的に受け止め、柔軟な対応ができた学生は、留学の満足度や現在の幸福度が高く、状況認知の在り方やそれに伴う対処行動といった個人の心理的要因がメンタルヘルスを規定することが明らかになった。以上の結果は今後

の望ましい留学生支援の在り方を示唆していると思われた。

第二次審査においては、質問項目への回答、自由記述の内容、対象者が国費留学していた1980年代という時代背景、今後の留学生支援にいかに関与するかなどについて、多岐にわたる質疑が行われ、いずれに対しても適切な回答が得られた。

本研究は、1980年代に日本で学んだ国費留学生を縦断的に追跡し、留学生のメンタルヘルスに影響する要因を調べた研究で、申請者が長年にわたり留学生支援にあたってきたからこそ実施可能な研究として意義がある。さらに、今後の留学生支援の在り方を示している点も高く評価できる。

以上から、学位論文として価値あるものと認定した。